スペインの観光関連雇用、10月は6.2%増の300万人超に

宿泊・飲食サービス業では年間で12万153人増加。飲食サービスがけん引し、スペイン全体の雇用市場を上回る伸びとなった

2026年11月19日（木）



スペインの宿泊・飲食サービス業では、10月までの1年間に社会保障制度への加入者が12万153人増加した。増加の大半を飲食サービスが占めており、レストランや宿泊施設での雇用が経済全体を上回るペースで拡大し続けていることを示している。

Turespañaが11月19日木曜日に公表し、Europa Pressが報じた10月のデータによると、スペインの観光関連雇用は2025年10月から17万6,147人、率にして6.2%増加し、社会保障制度への加入者は300万人をわずかに上回った。Turespañaによると、10月の観光関連雇用は国内の社会保障制度加入者全体の13.4%を占めた。

この伸び率は、労働市場全体を上回った。Turespañaが引用した数値によると、10月のスペイン全体の社会保障制度加入者数は前年同月比4.3%増加した。この差は、観光業、とりわけ宿泊・飲食サービス業が引き続き雇用増加の主要なけん引役の一つであることを示している。

宿泊・飲食サービス業で最も大きく増加したのは飲食サービスで、2025年10月から8万1,844人増えた。宿泊サービスも3万8,309人増加した。この2部門の伸びにより、宿泊・飲食サービス業は10月の観光関連雇用創出を最も大きくけん引した。

その他の観光関連業種も5万6,301人増加した。一方、旅行代理店では307人減少した。Turespañaによると、この減少は代理店の雇用が実際に縮小したことを意味するものではない。スペインの企業分類制度CNAEの改定により、従来は旅行代理店に分類されていた一部の業務が別のカテゴリーに移された影響を受けているためだ。

また、雇用の増加は引き続き被用者が中心だった。10月、給与所得者は観光関連の社会保障制度加入者全体の83.1%を占め、その数は前年同月比6.9%増加した。宿泊・飲食サービス業の給与所得者数は7.5%増え、宿泊サービスの伸び率は9.2%と、飲食サービスの6.9%を上回った。

観光関連加入者の16.9%を占める自営業者の増加ペースは、より緩やかだった。観光関連業種全体では2.6%増加した。宿泊・飲食サービス業では1.9%増で、宿泊サービスは17.8%と大幅に伸びた一方、飲食サービスの増加率は0.6%にとどまった。旅行代理店の自営業者数は2.8%減少したが、TurespañaはこれもCNAEの分類変更に関連していると説明した。

宿泊施設と外食産業の双方で、労働需要が続いていることが数値からうかがえるが、伸び方には差があった。給与所得者、自営業者ともに宿泊サービスの伸び率が最も高かった一方、飲食サービスは規模が大きいため、実数ではより多くの雇用を生み出した。

地域別では、10月にすべての自治州で宿泊・飲食サービス業、旅行代理店、ツアーオペレーターの雇用が増加した。増加人数ではバレアレス諸島州が最も多く、社会保障制度加入者は2万686人増えた。前年比の伸び率でも同州が首位となり、18.4%増だった。次いでバレンシア州が7.1%増となった。

10月の数値は、全国の労働市場を数カ月にわたって上回ってきた観光業の堅調な雇用増加が続いていることを示す。レストラン、バー、ホテルでは、夏の繁忙期を過ぎても大幅なペースで雇用を吸収し続け、観光関連の雇用総数は300万人を超えた。Europa Pressが報じたTurespañaのデータによると、この拡大の中心にあるのは引き続き宿泊・飲食サービス業で、レストランなどの飲食事業者が新規雇用の最大の割合を占め、宿泊サービスは最も高い伸び率を記録した。